

ハイライトよねやま

2000年9月1日発行

1. 今年度第一回理事会・評議員会開催

8月30日(水)(財)ロータリー米山記念奨学会の理事会・評議員会が、東京で開かれました。全国から理事・評議員総数106名が出席しました。

1999年度の奨学事業と決算報告がその主な議案でした。米山奨学金は今年度も1100人の奨学生を支援することができました。この数年の傾向ですが、各地区とも、学業優秀で、留学目的の明確な、そして異なる文化とのコミュニケーション能力に優れた留学生を選びます。1100人中大学院生が917人を占めるのもその表れでしょう。また、喜ばしいニュースは、寄付金が年度始めの予想を上回ったことです。厳しい経済環境が続く中で、ガバナーはじめ、ロータリアンの皆さんの情熱と支援のお陰で、予算を約41,000,000円上回る1,841,321,754円が(対予算2.3%増)寄付金として集められました。

理事会・評議員会終了後、引き続いて2001-2002年度ガバナー・エレクトの方々を対象とした研修会が開かれました。米山奨学事業への理解を深め、来年度のガバナーに向けての準備です。高野学務担当理事の説明に続いて、活発な意見の交換がありました。「日本のロータリーが世界に誇れる国際奉仕・米山奨学事業を積極的にR Iへアピールすべきだ」といった声に、「私がやります」と答えたR I理事丸山宏氏(東京銀座RC・米山奨学会理事)のメッセージは参加者に元気を与えました。

2. 崔相龍 駐日韓国大使歓迎昼食会

今回の理事会・評議員会の昼食会は、元米山奨学生で駐日韓国大使である崔相龍閣下を招いた歓迎昼食会となりました。1960年代末から1970年代にかけて、東京大学の博士課程に学ぶ崔相龍氏の世話クラブを引き受けたのが東京日本橋RCと東京城西RCでした。

韓国で、大学教授から直行便で駐日大使のポストにつかれたのは、崔大使が初めてで、「日韓関係は変わった。変化のシンボルのひとつは、親日学者が駐日大使となったことである。」といわれるほど異例のことです。大使は、冒頭「伝統的なキャリア外交官としての知識、経験はないが、『日本人との友情』という資産をもって、大使としてやって来ま



スピーチをする崔大使

した」と参加者に感動を与えました。本論の格調高い日韓文化・歴史論を「出会いと友情を基本として、少しでも、普通の日本人の記憶に残る大使になりたい」と崔大使の人柄をうかがわせる言葉で締めくくり、歓迎昼食会を印象深いものとししました。

なお、崔大使のスピーチの内容は、「ロータリーの友・よねやまだより」11月号に掲載されます。ご期待ください。

3. 全国学友会代表者会議報告

2000年7月29日(土)、全国18の学友会の代表者と、学友委員会委員が東京・品川に集まって「全国学友会代表者会議」を開きました。

活動報告に続くフリーディスカッションでは、忌憚のない意見を聞くことができました。主な意見を紹介します。

- ・ 学友一人ひとりの特色を活かし、学友会活動を目的意識の高い、魅力あるものにしたい。
- ・ 学友にとって身近で、生活の一部のような学友会でありたい。
- ・ インターネットなど新しいメディアを利用して人的ネットワークを拡げ、地域社会に貢献する。

初めての試みとしては、意義ある会議でした。これを機に、学友会の代表者が互いに知り合い、情報の交換をし、学友会の運営、ロータリアンとの交流などがますます盛んになることが期待されています。

お 願 い

10月は米山月間です。米山奨学事業への理解と寄付増進のお勧めをよろしくおねがいいたします。

以 上